

## 南アフリカ どの市場に柑橘類を送るか分析が必要

FreshPlaza 2024年2月13日

紅海の危機により北半球の一部の国はアジアに果実を届けることが非常に困難になっており、今シーズンの柑橘類の荷動きに大きな影響を与えると見られる。

南アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、「南アフリカの柑橘類輸出にどのような影響があるかはまだわからない。北半球の生産者は、中東経由で果実を運ぶのが難しくなり、ヨーロッパに果実を送る方が容易になる。そうすると、ヨーロッパではエジプト産やモロッコ産の果実が通常より多くなり、アジアでは少なくなると考えている。シーズンを通して、どの市場に柑橘類を送るべきかを分析する必要があるかもしれない。もちろん、各市場には独自の要件があり、出荷先の切り替えができないものもあるが、できるものもある。シーズンの早いうちにヨーロッパの代わりにアジアに送れるものは何かを見極める必要がある。どのような影響があるか予想することは難しい」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

レモンの収穫は年初に始まったが、主要な柑橘類の収穫量は5月上旬に向かって増加し始め、6月と7月に本格化し、9月にかけて徐々に減少する。「適切な時期に雨が降り、開花も非常に良く、着果も順調で、ここまで非常に良い生育期間となっている。先週、西ケープ州では少し降雹があり、その地域の一部の生産者が被害を受けたが、ほとんどの地域では豊作が期待されている。」

公式統計によると、欧州市場は今のところ高値で好調に見えており、チャドウィック氏はこれが南アフリカ産の出荷シーズンが始まるまで続くことを望んでいる。「EUは我々にとって非常に重要であり、我々は適用されるすべての措置に準拠して果実を市場に出すことで、正しく対処する必要がある。」

南アフリカは一部の柑橘類をインドに輸出しているが、果実を海上輸送する前に陸上で燻蒸または低温処理を行う必要がある。「他のすべての市場ではこの処理は輸送中に行われるため、陸上の処理には余分な時間がかかり、非常に混乱を招く。輸送中に低温処理を行う試験出荷を何度か実施して成功を収めている。インドは南アフリカ産柑橘類の優先市場であると考えており、規制が早期に変更されることを願っている。リンゴとナシについては輸送中の低温処理規制がすでに変更されており、それ以来輸出量は倍増した。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

## EU 生産者の抗議を受け気候戦略を再考

FreshPlaza 2024年2月13日

欧州連合(EU)は、欧州大陸全域に広がった農業生産者の抗議行動の影響を受け、環境への野心を再考している。欧州委員会は、農薬の使用を半減させるという公約を著しく後退させ、2040年までに温室効果ガスの排出量を90%削減するという厳格な義務から農業を除外した。ヤヌシュ・ヴォイチェホフスキ農業担当欧州委員は、これらの逆転劇に満足の意を表明し、生産者に農薬使用量の削減を強制するのではなく、補助金の増額を通じて奨励することの重要性を強調した。

この再調整は、EUが2050年までのカーボンニュートラルを目指し、2030年までに温室効果ガス排出量を1990年比で最低55%削減することを目指している中で起こったが、ヴォイチェホフスキ氏は、こうした幅広い目標の中で農業部門のユニークな特性に対応する必要性を強調した。これらの政策調整のタイミングは、6月に予定されているEU議会選挙で、議会に極右やその周辺の勢力が増え、EUの環境政策に影響を与える可能性があることと予想されていることと一致している。

H.E.C.パリ高等ビジネススクールのアルベルト・アレマンノ教授は、農業問題が選挙の争点として大きく取り上げられ、EUの環境政策の進展に影響を与える可能性があることと予測している。またそれと同時に、ヨーロッパ中の農業生産者らがコストの高騰、負債の増加、及び競争の激化に動機付けられて抗議行動を展開している。農産物価格の下落と、投資及び支援の強化への呼びかけは、このセクターの財政的な困難を浮き彫りにしている。

出典: [cnbc.com](https://www.cnbc.com)